

令和7年度
相模線複線化の早期実現
に関する要望書

国土交通省 関東運輸局長
藤田 礼子 殿

相模線複線化等促進期成同盟会

相模線複線化の早期実現に関する要望書

【要望事項】

リニア中央新幹線の開業を見据えた整備や各自治体のまちづくりが着実に進展する中、相模線の輸送力増強や速達性向上等、輸送サービスの改善が望まれることから、信号保安設備の改修や行違い施設の整備、部分複線化等の段階的整備を図り、沿線住民の切なる願いである、相模線全線複線化の早期実現に向けた取組を推進されますよう要望します。

相模線の現状

- ・ 東京都心から約50kmに位置する相模線は、東海道本線や横浜線など東京や横浜方面に向かう5つの路線と接続しているが、単線のため、列車の行違いの待ち時間等により表定速度が低く、運行本数も少ないなど、周辺の鉄道と比較して十分な輸送サービスが確保されていない。

相模線を取り巻く環境

- ・ 平成28年4月の交通政策審議会答申「東京圏における今後の都市鉄道のあり方について」において、「新幹線駅へのアクセス改善や通勤・通学需要の急増等、輸送需要の動向等を踏まえて、例えば相模線、南武線等の輸送サービスの改善に資するプロジェクト等については、関係地方公共団体・鉄道事業者等において、検討が進められることを期待」と位置付けられている。
- ・ 「新かながわグランドデザイン」において、相模線複線化などの促進が位置付けられているとともに、「かながわ都市マスタープラン」において、全国との交流連携の窓口となる北のゲート(リニア中央新幹線駅:橋本駅付近)と南のゲート(東海道新幹線新駅:倉見駅付近)を結ぶ相模連携軸の整備・強化が位置付けられている。
- ・ 北のゲートとしてリニア中央新幹線の駅が設置される相模原市橋本駅南口地区では、昨年12月に、独立行政法人都市再生機構が土地区画整理事業の事業認可を申請するなど、「リニアでつながる一歩先の未来を叶えるまち橋本」をコンセプトにまちづくりが進められている。
- ・ また、リニア中央新幹線の工事が沿線各地で進められていることを受け、南のゲートとして東海道新幹線新駅を誘致している寒川町倉見地区の倉見駅付近では、新駅設置の可能性が高まっている。
- ・ この東海道新幹線新駅の受け皿となる、寒川町倉見地区と相模川対岸の平塚市大神地区とを一体化した、環境と共生する魅力ある都市「ツインシティ」のまちづくりにおいては、平塚市大神地区の土地区画整理事業が令和9年度に完了する予定であり、寒川町倉見地区についてもまちづくりに係る都市計画手続きを、令和9年度を目途に開始できるよう取り組んでいる。
- ・ 神奈川東部方面線の開業により、県央・湘南地域から、東京、埼玉まで、広域的な鉄道ネットワークが形成され、相模線沿線の利便性向上や地域活性化につながっている。
- ・ 小田急多摩線(上溝駅方面)や相鉄いずみ野線(倉見駅方面)の延伸等の交通ネットワーク拡充による、東京都心や横浜・川崎などの拠点との更なる連携強化も期待されている。

同盟会の取組

- ・ 平成25年度に相模線を取り巻く環境の変化を踏まえ、複線化の早期実現に向け、概ね令和27年度までに取り組む内容についてまとめた、「新たな相模線交通改善プログラム」を策定した。
- ・ 行違い施設整備の検討や駅及び周辺の交通改善、地域の魅力創出の需要喚起施策等を実施している。

令和8年2月4日

相模線複線化等促進期成同盟会
会長 相模原市長 本村 賢太郎